

# 物理学史資料紹介

## 日本における物理学史資料の保存状況

日本物理学会  
物理学史資料委員会会報 No. 3  
2005年12月

物理学史資料委員会の主な仕事は物理学史資料についての情報を集めることにある。AIP の Niels Bohr Library のように物理学史資料を収集・整理・保存するというアーカイブズとしての機能はほとんどない。それは物理学史資料委員会においては資料の保存場所がないことが大きな原因となっているが、会報 No. 1 でも書かれているように日本では専門職としてのアーキビストという資格が認められていないことにもよっている。日本においては、アーカイブズやアーキビストという言葉そのものの認知度が低いことにも見られるように、一般的に歴史的な資料については関心がほとんど払われてこなかった。2004 年 4 月には日本アーカイブズ学会が設立され、ようやくアーカイブズについての研究の機運が高まりつつある状況が出てきた。しかし、司書や学芸員のような国家資格となるまでにはまだまだ道のりは遠いように思われる。

当初、物理学史資料としては、文書のみを扱ってきたが、最近、実験機器をも調査対象とするようになった。歴史のある大学や高校などにおいては、物理学の実験機器が倉庫の片隅に置かれていたり、保存されていることがある。これらの機器の由来などを丹念に調べることにより、どのような実験的教育が行われてきたのかを知ることができる。

しかし、実験機器の場合は、保存場所について文書とは比較できないくらいの広い空間が必要となることと、展示という博物館的要素が必要となってくる。このところ大学博物館が設置されるようになり、歴史的な物理学関係の実験機器が収集・整理・保存・展示されるようになった。

本会報においては、物理学者を中心とする文書関係資料と旧制高校の実験機器関係の資料をまとめた。このような調査により先人たちの足跡を知ることができ、日本の学術および教育の近代化への道が明らかになっていくであろう。物理学会会員には、さまざまな資料情報の提供をお願いしたい。

# 文書関係資料

## 【坂田昌一資料】

保管場所：名古屋大学大学院理学研究科物理学教室坂田記念史料室（1973年4月18日創設）

Sakata Memorial Archival Library

責任者：佐藤修二

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-2876

E-mail: ishihara@post.phys.nagoya-u.ac.jp

2005年10月以降、坂田記念史料室の運営は、2004年度に設置された名古屋大学大学文書資料室の協力を得て、理学研究科物理学教室の責任のもとに行われている。

閲覧希望等は、上記責任者宛に文書の郵送（封筒の表に、「坂田記念史料室」と、目立つように朱書きしておくこと）、またはE-mail（表題を「坂田記念史料室」と全角漢字で記すこと）で申し込むこと。

E-mail: ssato@z.phys.nagoya-u.ac.jp

収納資料に関しては、以下を参照のこと

『坂田記念史料室資料目録第一集』（1992年3月増補）

『坂田記念史料室資料目録第二集』（1995年3月）

## 【田中館愛橋資料】

保管場所：田中館愛橋記念科学館

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡55番地  
二戸シビックセンター内

TEL 0195-25-5411, FAX 0195-23-3548

<http://www.civic.ninohe.iwate.jp/aikitu.html>

田中館愛橋が携わった地球物理学関係の実験装置、博士を中心とする日本人科学者のデジタルアーカイブ、生涯と業績、関連のある科学技術史を展示と映像で紹介する田中館博士記念工房、実験・体験を通して子供たちが科学を学ぶことがで

きるよう、オーロラ発生装置・液体窒素製造装置・ストロボ発生装置・真空実験装置・シャボン膜発生装置・風洞実験装置・落下実験装置等を備えサイエンスショーを上演する科学実験体験工房、自分で実験・工作が楽しめる自由工房からなる。開館時間（9:00-17:00）・休館日（毎週月曜日（休日の場合はその翌日））等の詳細は直接問い合わせること。

所蔵資料として、蔵書（航空関係は貴重）・書簡・論文（学生時代の答案も含む）・報告書・ノート（グラスゴー、ベルリン留学時代の講義聴講ノートも含む）・手帳メモ類（実験記録等も含む）・日記（ほぼ生涯にわたる）・公的書類（辞令等）・写真（主に航空関係）・録音・録画記録（講演・インタビュー）等の他、愛用のタイプライター・フルート・帽子など遺品類もあわせて、1万点近い資料が保存されている。記念館完成時に遺族より二戸市に寄贈された。閲覧は閉架式、資料目録で希望する資料を選定し申し込むと、係員が検索し収蔵庫から搬出し、閲覧室で閲覧するシステムになっている。閲覧費用は無料であるが、資料のコピーを依頼する場合は実費を支払う。

田中館愛橋会（会長丹野幸男、事務局長 佐藤綾男、二戸シビックセンター内）

年2回会報を発行すると同時に、博士の顕彰活動の一貫として、中村清二著『田中館愛橋先生』復刻版、同会編集『Tanakadate—遺墨集』（平成4年）、『田中館愛橋博士歌集』（平成9年）などを出版している。

（文責 吉田晴代）

## 【朝永振一郎資料】

保管場所：筑波大学大学会館朝永記念室（1983年9月29日創設）

# 文書関係資料

連絡先：筑波大学総務・企画部総務課総務係大学会館管理事務室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-2382

<http://www.tsukuba.ac.jp/gaiyo/nobel/tomonagakinen.html>

朝永振一郎のノート、日記、草稿、蔵書、写真等が多数所蔵されており、目録がある。主なものは記念室内に展示されているが、資料の大半は壁面のキャビネットに収められている。

## 【中谷宇吉郎資料】

保管場所：加賀市中谷宇吉郎雪の科学館（1994年11月創設）

責任者：神田健三（中谷宇吉郎雪の科学館館長）

〒922-0411 石川県加賀市潮津町イ-106

TEL 0761-75-3323, FAX 0761-75-8088

<http://www.city.kaga.ishikawa.jp/yuki/>

E-mail: yuki-mus@blue.hokuriku.ne.jp

設立の経緯と館の展示

北海道大学で雪と氷の研究を行い、「雪は天から送られた手紙である」の言葉で知られる中谷宇吉郎（1900-62）を記念して、生誕地の加賀市が建設し、1994年11月に開館した。展示室は5つのゾーンで構成され、ひととなりゾーンでは、恩師・寺田寅彦との交流や、随筆や絵画を含む多才な活躍を紹介している。雪の結晶ゾーンでは、北大にあった常時低温研究室のかたちを復元させた小部屋に人工雪製作装置が置かれている。写真パネル、立体視、ビデオなどにより紹介する一方、写真乾板の整理棚、スペースシャトルに載せた人工雪実験装置など、実物資料も配置している。また、入館者に体験を通じて理解してもらうことも重視し、開館時からある「チングル像」実験の他、ダイヤモンドダスト、過冷却、雪の浮遊などのコーナーも設けられている。

所蔵資料（科学研究関連資料）

- ・天然雪と人工雪など、研究のために撮影した写

真乾板約4,000枚と、これをプリントして貼ったアルバム23冊。

・英文で67、和文で52になる自著共著論文の大部分、「雪の研究」「Snow Crystals」の研究書、その他研究報告書類。

・献呈・収集された論文別刷は、雪・気象・物理関係など2,800部余り。寺田寅彦門下のものも多い。開館後、宇吉郎門下の研究者の論文別刷も集まっている。

・定期刊行物は、日本の数学物理学会や物理・気象・雪関係（雪水、低温科学、他）などがあり、アメリカ気象学会や雪水凍土研究所、極地研究関係のものなど多数。

・論文の原稿や原図、草稿など。

・東大での受講ノート（製本した10巻と未製本26冊）。1922～26年頃の東大での講義内容を知る資料となる。

・映画「雪の結晶」等、監修した映像作品の大部分とその他の雪関係のものが、16ミリフィルムやビデオなどで収集されている。

（文責 神田健三）

## 【長岡半太郎資料】

保管場所：国立科学博物館理工学研究部理工学第一研究室

担当者：大迫正弘

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1

TEL 03-3364-2311（代表）

長岡半太郎の学生時代のノート（留学中を含む、実験データ、日記、雑記、書簡など）からなる。東京帝国大学、大阪帝国大学、帝国学士院、理化学研究所、日本学術振興会、学術研究会議などに関する資料も含まれている。

## 【仁科芳雄資料】

保管場所：独立行政法人理化学研究所広報室（記念史料室）

連絡先：広報室（記念史料室）

# 文書関係資料

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

TEL 048-467-9273 (記念史料室直通)

理化学研究所の設立にかかわる記録および仁科芳雄など個々の研究者の研究成果に関する資料が所蔵されている。また、実験機器類も保管されており、広島・長崎での原子爆弾の調査で使用された放射線測定器なども含まれている。

科学振興仁科財団仁科会館（1998年4月11日創設）・仁科芳雄博士生家

責任者：佐藤安徳（館長）

理事長：佐藤 清（里庄町長）

〒719-03 岡山県浅口郡里庄町大字浜中 892-1

TEL 08656-4-4888, FAX 08656-4-3618

<http://www.kagaku.nishina.town.satosho.okayama.jp>  
E-mail:w-koumin@town.satosho.okayama.jp

## 1. 仁科芳雄博士生家

仁科芳雄が、高等小学校卒業まで過ごした生家。江戸中末期の庄屋建築。生誕100年を記念して修復され、往時そのままの風格のある佇まいを見せていている。少年時代の作品（習字・図画）・学習ノート・手紙等が展示されている。毎日曜日に一般に公開されている。勉強部屋に使われたとされる部屋も参観できる。

## 2. 仁科会館（仁科芳雄博士顕彰展示施設）

資料は、仁科芳雄の生家の蔵に残された少年時代の資料を中心で、独自に収集されたものも加えられている。

展示室が4室設けられて公開されている月（曜と第3日曜日、年末年始休館）

①少年時代の習字・絵・学習ノート・写真など  
約150点

②岡山中学校・第六高等学校時代の学習ノート、手紙写真など約50点

③東京大学在学中の手紙・はがき350点写真類40点

④欧州留学中の資料・理化学研究所在職中の資

料等（写真が中心）約100点

## 刊行物

- ①まんが仁科芳雄博士物語
- ②全力疾走の人生
- ③仁科芳雄博士書簡集（少年時代編）
- ④欧州留学紀行「折々の便り」  
—仁科芳雄博士生誕110年記念—
- ⑤映像評伝「仁科芳雄・現代物理学の父」
- ⑥ビデオ「現代物理学の父・仁科芳雄博士」
- ⑦ビデオ「全力疾走の人生・仁科芳雄」他

## 顕彰事業

- ①生家の保存公開と顕彰展示（仁科会館）
- ②資料刊行事業
- ③仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会
- ④理化学研究所里庄セミナー
- ⑤ロボットコンテスト
- ⑥楽しい理科実験教室
- ⑦その他

（文責 仁科会館館長 佐藤泰徳）

仁科記念文庫（1955年12月6日創設）

連絡先：仁科記念財団

〒113 東京都文京区駒込2-28-45

Tel 03-3942-1718

仁科芳雄資料の整理・調査活動

整理を完結した事例として「理研3号館資料」の整理・調査活動について述べる。これは仁科の海外留学出発直前から帰国後数年までの期間にわたる資料である。仁科記念文庫では、1988年にこの資料一式を理研から一時借り受け、故竹内一氏が主力となって整理・調査を行った。

基本的な方針として、各資料を同定できるように管理番号をつけ、その番号は内容による分類を含まない通し番号とした。資料の中には断片的なメモその他、いずれの範疇に属すべきか判断に迷うものもあり、内容による分類を行いだすと整理の作業が遅々として進まなくなる恐れがあったからである。

# 文書関係資料

各資料には管理番号を記入したラベルを貼り、書簡は透明のファイルに、書簡以外は一点筒ずつプラスチックケースに収めた。

次に、全資料のコピーをとる作業を行った。この際の苦心談もいろいろある。サイズの大きなもの、表裏両方に書き込みがあり、コピーを取ると裏側の文字も浮き出して判読しにくくなるもの、破損しそうなものなどの扱いである。破損しそうなものは、竹内氏が和紙と糊を用いて器用に補修された。

最後に資料内容一覧を作製した。手書きの資料が多く、判読に困難な箇所に出会うことがしばしばであったが、特に和文書簡のくずし字や変体仮名の解説に竹内氏は独自の工夫と修練を重ねられた。また竹内氏は自らデンマークに調査の足を運ばれ、おかげでデンマーク語の手紙の由来も解明された。こうして1991年には資料内容一覧のワープロ原稿が完成したが、竹内氏は亡くなる直前の1994年春までこれに補筆を加えられた。これは1994年11月に冊子として印刷し、各資料室その他希望のある方にお配りしたが、現在も仁科記念文庫に在庫がある。

1993年に原資料一式は前述の収納方法で理研の史料室に返却し、現在同史料室に保管されている。コピー一式は仁科財団の仁科記念文庫にある。

## 【早川幸男資料】

保管場所：坂田記念史料室（坂田昌一資料参照）

1996年末から97年初めにかけて、2回にわたり早川家よりダンボール10箱ほどの資料を受けとった。内容は早川所蔵の書籍、プレプリント、リプリントのほか、著書、論文、講演の原稿、計算を記した紙、国大協などに関する議事録など、多くの種類からなっている。

早川の核融合関係の資料は、核融合科学研究所核融合アーカイブ室で保管している（核融合アーカイブ室参照）。

## 【伏見康治資料】

保管場所：核融合科学研究所核融合アーカイブ室  
核融合関係の伏見資料が保管されている（核融合アーカイブ室参照）。

## 【堀 健夫資料】

保管場所：北海道大学附属図書館、図書館北方資料室  
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
図書館：TEL 011-706-3956、北方資料室 TEL 011-706-2994

堀健夫(1899-1994)の遺された資料が、ご遺族のご好意により北海道大学附属図書館に寄贈された。資料の概略は次のとおりである。

図書類（370冊）は、主として氏の専門であった光学（分光学）関係の洋書・和書である。手稿類は、日記類（13点）および講義ノートやアルバム類からなる。そのなかで特に目につくのは、氏の留学時代（1926-28年）を中心とした日記と、京都産業大学時代の講義ノートである。特に前者は、量子力学がまさに誕生しつつあった時期のボア研究所およびヨーロッパの物理学界の様子を如実に伝えてくれる、きわめて貴重な資料である。これらのほかに、わずかではあるが、戦中および戦後の北海道（帝国）大学（理学部や低温科学研究所）の様子を記録した資料もある。

なお、堀健夫は、京都帝国大学物理学学科を1923年に卒業し、留学から帰った後、旅順工科大学の教授を経て、1935年北海道帝国大学教授となり、戦後は低温科学研究所所長も務めた。その後、関西学院大学、京都産業大学でも教壇に立った。留学前に、三高で教授森総之助が外遊中に力学の講義を担当し、湯川秀樹・朝永振一郎・小堀憲らを教えたこともある。

図書資料は整理が済み、北海道大学附属図書館書庫内に一般資料とともに配架されている。手稿類は未整理であり、同図書館の北方資料室が所蔵している。

# 文書関係資料

(資料の説明については会報第2号から引用し、  
資料の現状については北海道大学附属図書館東重  
俊氏のご教示を受けた。岡本拓司)

## 【本多光太郎資料】

本多光太郎の遺品・資料は、仙台市、岡崎市、東京都に保管されており、常時展示されているもの、資料として所蔵されているもの、遺族によって保存されているものがある。

全体の分量は、研究関係の論文・著書、発明品などのほか、個人的所持品から写真や書簡などを含めると数百点にのぼる。これらのリストは、財団法人本多記念会の助成により、金属材料研究所(金研と略称)の在籍者であった菅井富氏と安達健五氏によって作成され、同研究所に所蔵されている。

岡崎市の資料については、岡崎市職員である中根良一氏がその収集・整理に努力され、安達健五氏も協力して厚い一冊の資料集としてまとめられた。

保管場所：東北大学金属材料研究所(財)本多記念会本多記念館（本多記念室、資料展示室）

担当者：赤坂光子

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

TEL & FAX 022-215-2868

<http://www.imr.tohoku.ac.jp/Jpn/introduction/honda-mh.html>

本多記念館本多記念室（25平方メートル）および資料展示室（43.4平方メートル）が本多光太郎関連の物品を所蔵する。前者にはデスマスク、所持品、書簡類、本多光太郎が生前に使用した実験器具や実験ノート、磁性関係の資料など、後者には東北大学金属材料研究所が研究開発したKS永久磁石鋼などの新素材やその製品など、本多関係図書、色紙、発明品などが常時展示されている。

## 本多会館

管理人 齋藤秀子

〒980-0065 宮城県仙台市青葉区土樋1-6-11

TEL 022-222-0478

本多光太郎に関するもう一つの展示場は、在職中の本多邸であった米ヶ袋の邸内の「本多会館」である。なお旧邸は外来者用の宿泊所として使用されている。記念館には、岡崎市の遺品・資料の写真展示が多く、その他受賞関係、新聞記事、逝去後の記事などが示される。場所は金研から歩いて数分のところである。

## 保管場所：東北大学総合学術博物館

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

TEL 022-795-6767

<http://www.museum.tohoku.ac.jp/>

本多光太郎の資料のうち、論文や実験ノートを所蔵していた金属博物館は、2003年5月31日に閉館となり、同館の所蔵資料や図書は同年6月2日に東北大学総合学術博物館に寄贈された。寄贈された資料には「本多先生墨蹟『百鍊可断鉄』」などが含まれている。

東北大学総合学術博物館は2005年12月現在建設設計画中であり、資料の公開も行われていない。

## 本多光太郎資料館

〒444-0011 愛知県岡崎市欠町字大山田1-1 東公園内

TEL0564-24-0050

これは矢作地区の本多の生家の勉強部屋と納戸を同公園に移転改修したもので、郷土出身の偉大な学者としての本多を、青少年や市民に知らせる目的で作られた資料館である。したがって、本多の業績の年表や発明物件そして勉強部屋が配置され、分かりやすい説明がなされている。

岡崎市内のもう一つの資料展示は、矢作南小学校の敷地にある「矢作南学区市民ホーム」である。

## 文書関係資料

ここには本多の個人的な遺品や、学術書・論文など、数は少ないが貴重な遺品が置かれている。この他矢作地区の小・中学校に本多執筆の掛軸や色紙が飾られているが、複製のものが多いときく。

岡崎市内の本多資料の詳細は岡崎市役所公園緑地課 中根良一氏 (TEL 0564-23-6466) に問い合わせられたい。

### 本多生家

〒444-0939 岡崎市新堀町字大庭 11-1  
酒井幸男方 本多俊子  
TEL 0564-31-1012

本多の生家は現存しており（勉強部屋は移転）、遺族によって主な遺品が守られている。親族に関係した書簡や写真、受賞のメダルや絵画などであるが、科学史的に必要と思われるものはすべてコピーさせて頂き、岡崎市公園緑地課が保管している。生家はご遺族によって守られている。

公開された展示場はなく、個人の厚意によって訪問見学が許されるので事前の連絡が必要である。

### 東京の本多関係資料

本多の直系の孫の故人本多竜吉氏の夫人本多トミ子氏も親族としての遺品を守られている。ただし、所持されていた多くの遺品は各地の記念館や資料室に貸与または寄付されている。蔵書・著書は本多竜吉氏のものも含めて金属博物館に寄贈され（次いでおそらく東北大学総合学術博物館に引き継がれ）、大礼服などの衣類や若干の論文抜刷などは国立科学博物館に寄託された。国立科学博物館の電子顕微鏡関係の資料の中にも本多光太郎関係のものが含まれている。

東京の本多家の連絡先は、東京都大田区田園調布 本多トミ子氏 (TEL 03-3721-4312) まで。

国立科学博物館の本多光太郎資料は以下に所蔵されている。

国立科学博物館理工学研究部理工学第二研究室

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1

TEL 03-3364-2311 (代表)

(会報第 2 号の記述をもとにし、若干の追加情報を入れた。岡本拓司)

### 【安河内 昂資料】

#### 保管場所：核融合アーカイブ室

日本大学の安河内資料（段ボール箱 104 箱）は、物性研究資料室に保管され、勝木渥会員と大山哲雄会員により仮目録が作られた。その資料は、1999 年物性研究資料室閉鎖に伴い日本大学理工学部物理学科科学史研究室に移管された。2006 年に核融合アーカイブ室に移管予定。

### 【湯浅年子資料】

保管場所：お茶の水女子大学センター（1996 年 5 月創設、全身は女性文化資料館 1975 年創設）

Institute for Gender Studies

責任者：館かおる（センター長、お茶の水女子大学教授）

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1  
TEL 03-5978-5846, FAX 03-5978-5845  
<http://www.igs.ocha.ac.jp/indexJ.html>

センターでは、日本の女性自然科学者のパイオニアたちの資料を整理、収蔵、研究している。これまでに、湯浅年子、黒田チカ、保井コノ、辻村みちよなどの資料を中心に整理し、目録や単行本として刊行している。

湯浅年子（1909-1980、お茶の水女子大学教授、パリ大学原子核研究所主任研究員（教授相当）を歴任）資料は、本会報でこれまでに報告されているように、1. 学術研究資料、2. 執筆関係資料、3. 私物、4. その他、に分類、整理され、8 個の B4 版ファイリングキャビネットに保存されている。さらに再整理が進行中である。

湯浅資料を調査、研究などに利用する際には、

## 文書関係資料

センターに申し出れば、センターの規定に従って閲覧できる。現在平均 5件/年程度の利用がある。特に国際的に活躍した研究者としての湯浅への関心が増している。この資料を利用した最近の出版物には、たとえば下記がある。

山崎美和恵『パリに生きた科学者湯浅年子』岩波ジュニア新書, 2002. 山崎美和恵『湯浅年子博士の科学と人生—パリに生き、真実を求め続けた物理学者の軌跡—』ジェンダー研究（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報）第4号, 2001. Kenji Ito『Gender and Physics in Early 20th Century, Japan: Yuasa Toshiko's Case』Historia Scientiarum 14 (2004) 118–134.

山本志乃『湯浅年子(1909–1980)』地球は美しいまほら No. 23 旅の文化研究所, 2005.  
(このメモは同センターで湯浅資料の整理にあたってこられた松田久子氏を訪問して、伺った話を筆者の責任でまとめたものである。同氏に厚くお礼申し上げます。文責 近 桂一郎)

### 【湯川秀樹資料】

保管場所：京都大学基礎物理学研究所 湯川記念史料室（1980年4月1日創設）

Yukawa Hall Archival Library

運営組織：湯川記念史料室委員会

委員長：九後太一（基礎物理学研究所長）

〒606-01 京都市左京区北白川追分町

TEL 075-753-7007, FAX 075-753-7010

所蔵資料

A 湯川秀樹に関する資料。次のように大別される。

1. 研究論文の原稿、計算、メモ
2. 講演原稿、評論・座談会の原稿
3. 研究会ノート、論文抄録
4. 講義ノート
5. 大学・研究所関係記録
6. Progress of Theoretical Physics 刊行関係記録

7. 原子力委員会・物理学研究連絡委員などの記録

8. パグウォッシュ会議・科学者京都会議関係記録

B 湯川秀樹の蔵書・雑誌類（約 500 冊）  
書き込み、傍線のあるものも多い。

### 【核融合関係資料】

保管場所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所核融合アーカイブ室（2005年1月1日設置）

Fusion Science Archives

責任者：松岡啓介（室長、核融合科学研究所教授）

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6

TEL 0572-58-2780

<http://www.nifs.ac.jp/report/FUSION-archives/index.html>

E-mail: archives@nifs.ac.jp

所蔵資料

目的：日本の核融合科学研究に関する史料を恒常に調査、収集、整理及び保管し、また適切に研究者等に公開することを通じて、核融合研究に対する歴史的評価と社会に対する説明責任を果たす。

主たる業務内容：(1) 大学関係を中心とした我が国の核融合研究開発に関する史料の恒常的、総合的及び系統的な調査、収集、整理、保管、(2) 史料目録の作成とそのデータベース化、(3) 収集及び整理された史料及びその目録の適切な公開基準に基づく公開、(4) 収集及び整理された史料に基づく年表の作成など史料の編纂、(5) アーカイブズの手法に関する調査及び研究、(6) 国内外の関連研究機関とのアーカイブズに関する共同研究、等

現状：資料は、伏見康治、早川幸男、関口忠等の提供資料の他旧名古屋大学プラズマ研究所からの資料が中心である。約 10,000 点を超える史料について第一段階のデータベース化を終えた。こ

## 文書関係資料

れは、現時点で収集された資料の約二分の一である。整理された資料の公開へ向けた準備は始まつたばかりである。また、オーラルヒストリーの手法に基づいたインタビュー形式による資料の収集も行われている。

### 口頭発表

- (1) 「わが国の大学における核融合研究の資料調査」藤田順治, 木村一枝, 難波忠清, 大林治夫, 寺嶋由之介 (日本物理学会第 56 回年次大会, 2001 年 3 月 29 日)
- (2) 「A 計画とプラズマ研究所の設立」植松英穂, 竹田辰興, 西尾成子 (日本物理学会第 56 回年次大会, 2001 年 3 月 29 日)
- (3) 「日本学術会議における核融合研究に関する委員会の審議経緯」寺嶋由之介, 大林治夫, 木村一枝 (日本物理学会第 56 回年次大会, 2001 年 3 月 29 日)
- (4) 「プラズマ研究所の設立を通して見た日本の学術体制」植松英穂, 高岩義信, 竹田辰興, 西尾成子 (日本物理学会第 57 回年次大会, 2002 年 3 月 26 日)
- (5) 「わが国の大学における核融合研究に関する資料調査 II」大林治夫, 木村一枝, 佐藤浩之助, 佐藤徳芳, 寺嶋由之介, 難波忠清, 藤田順治 (日本物理学会第 58 回年次大会, 2003 年 3 月 30 日)
- (6) 「B 計画の見送りとその後」植松英穂, 竹田辰興, 小島智恵子, 西尾成子 (日本物理学会第 58 回年次大会, 2003 年 3 月 30 日)
- (7) 「Archival Studies on the Nuclear Fusion Research at the Universities in Japan」大林治夫 (KEK アーカイブス・プロジェクトに関する KEK-UCLA 合同ワークショップ, 2003 年 7 月 3 日, KEK 国際交流センター)
- (8) 「Archives of Nuclear Fusion Research in Japan」藤田順治 (1st UCLA-SOKENDAI Workshop on Archiving, Oral History and STS (Science, Technology and Society), 2003 年 7 月 8 日, UCLA)

- (9) 「磁場核融合装置開発史から見た高温プラズマ閉じ込め技術の試行錯誤」狐崎晶雄 (電気学会原子力研究会, 2003 年 9 月 9 日)
- (10) 「我が国の大学における核融合研究に関する資料調査」難波忠清, 藤田順治, 大林治夫, 寺嶋由之介, 木村一枝, 西尾成子, 植松英穂, 佐藤浩之助, 佐藤徳芳, 高岩義信, 川上一郎, 竹田辰興, 小島智恵子 (プラズマ・核融合学会, 2003 年 11 月 27 日)
- (11) 「フランスに於ける核融合開発の歴史」小島智恵子 (日本物理学会第 59 回年次大会, 2004 年 3 月 29 日)
- (12) 「学際的研究分野としての核融合」植松英穂, 西尾成子, 竹田辰興, 小島智恵子 (日本物理学会第 59 回年次大会, 2004 年 3 月 29 日)
- (13) 「NIFS Nuclear Fusion Archiving Research (I) 概要と問題点」大林治夫 (KEK-UCLA Workshop on KEK Archives (2004), 2004 年 7 月 19 日, UCLA)
- (14) 「NIFS Nuclear Fusion Archiving Research (II) 具体的活動内容」木村一枝 (KEK-UCLA Workshop on KEK Archives (2004), 2004 年 7 月 19 日, UCLA)
- (15) 「核融合研のアーカイブズの現状」藤田順治 (総合研究大学院大学アーカイブプロジェクト研究会, 2004 年 8 月 26 日, 総合研究大学院大学葉山高等研究センター)
- (16) 「わが国の大学における核融合研究に関するアーカイブズ」難波忠清, 藤田順治, 大林治夫, 寺嶋由之介, 木村一枝, 西尾成子, 植松英穂, 佐藤浩之助, 佐藤徳芳, 高岩義信, 川上一郎, 竹田辰興, 小島智恵子 (プラズマ・核融合学会, 2004 年 11 月 26 日)
- (17) 「プラズマ研究所の運営」大林治夫 (高エネルギー加速器研究機構・総合研究大学院大学研究会「大学共同利用研究所・研究機関の成立研究機関のアーカイブズ利用による歴史的研究」2005 年 1 月 25 日)

## 文書関係資料

- (18) 「核融合アーカイブ室」松岡啓介（総合研究大学院大学「大学共同利用機関の成立に関する史料アーカイブズ」研究会, 2005年3月3日, 総合研究大学院大学葉山高等研究センター）
- (19) 「核融合研究のアーカイブズその成立までの経緯」木村一枝（総合研究大学院大学「大学共同利用機関の成立に関する史料アーカイブズ」研究会, 2005年3月3日, 総合研究大学院大学葉山高等研究センター）

### 論文

- (1) 「History of Nuclear Fusion Research in Japan」Uematsu Eisui, Takeda Tatsuoki, Nisio Sigeiko (Historia Scientiarum 2nd Series Vol. 10, No. 1 (2000) 16)
- (2) 「日本の核融合研究開発の経緯関口忠氏インタビュー記録」西尾成子, 植松英穂, 大林治夫, 川上一郎, 高岩義信, 竹田辰興, 寺嶋由之介, 難波忠清, 藤田順治, 若谷誠宏, 木村一枝 (NIFS-MEMO-33, 2001年12月)
- (3) 「1980年代後半以降の日本の核融合研究開発の経緯関口忠氏インタビュー記録」西尾成子, 植松英穂, 大林治夫, 川上一郎, 小島智恵子, 佐藤浩之助, 佐藤徳芳, 高岩義信, 竹田辰興, 寺嶋由之介, 難波忠清, 藤田順治, 若谷誠宏, 木村一枝 (NIFS-MEMO-40, 2003年5月)
- (4) 「核融合研究アーカイブズ」難波忠清, 藤田順治 (プラズマ・核融合学会誌 Vol. 81 (2005) 396)

核融合関係の研究者の資料として宇尾光治資料がある。宇尾資料の保管場所は京都大学エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センターである。

宇尾光治が京都大学において、核融合研究のために研究活動を行った昭和32年から昭和63年までの期間に、収集した論文や文献に加えて、研究に関する資料、研究室運営に関する資料および学内外の宇尾光治氏が出席した会議に関する資料

が年代順にファイルに閉じて保管されている。他の資料室と異なるのは、すべての資料が宇尾光治氏自身により整理されたものであり、しかも普通では残さないようなレベルまで克明に保存されていることである。驚くのは、本人が出した手紙（下書き）とそれに対する返事が往復書簡集のようにして残されていることである。京都大学における核融合の歴史だけでなく日本の核融合研究の推移を知るためにには、貴重な資料である。

### 【原子核研究所およびKEK関係資料】

保管場所：大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構国際・社会連携部史料室（2004年4月1日設置）

責任者：高岩義信（室長）

〒305-0801茨城県つくば市大穂1-1

TEL 029-864-5100

[http://www-conf.kek.jp/archives\\_office/index-j.html](http://www-conf.kek.jp/archives_office/index-j.html)

### 所蔵資料

旧東京大学原子核研究所の資料：旧核研の各種委員会、レポートおよび行事の記録など

素粒子研究所準備調査委員会(SJC)および素粒子研究所準備調査室の資料：素研準備関係の委員会の記録、加速器と測定器のR & D および物理の準備研究の報告

KEK(高エネルギー物理学研究所および高エネルギー加速器研究機構)の資料：主要な委員会の議事録、記録写真、行事の記録

SSC資料：1993年に中止されたアメリカ合衆国の超大型加速器SSCに関わる記録。加速器用超伝導電磁石、測定器開発の記録とレポート

国内および国際共同研究組織の形成過程の記録など機関に委託された個人資料若干：KEKと直接、間接に関わった研究者のオーラル・ヒストリーの記録

研究機関のアーカイブズとしてのあり方の検討を活動の目標の一つに掲げている。しかしながら

# 文書関係資料

現実には、旧核研の資料と一部の KEK の委員会議事録を除いて、未整理の状態のものが多い。オーラルヒストリーの記録もほとんど文書化がなされていない。

## 口頭発表

2002年3月 日本物理学会「原子核研究所の設立を通して見る日本の学術体制」高岩義信、竹田辰興、植松英穂、西尾成子

2003年3月 日本物理学会「「核研」および「原子核将来計画」と「研究体制」」高岩義信、植松英穂、西尾成子、竹田辰興

2002年3月 日本物理学会「KEK 史料室の資料から見る、初期の日本の高エネルギー加速器の研究」高岩義信、菊谷英司、平田光司

## 【日本物理学会所蔵資料】

(社)日本物理学会 (1946年4月28日設立)

Physical Society of Japan

運営組織：日本物理学会物理学史資料委員会  
(1984年9月設立)

委員長：植松英穂（日本大学教授）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-3 栄進開発ビル5F

TEL 03-3434-2671, FAX 03-3432-0997

### 所蔵資料

1. 東京数学会社創立(1877年9月)以来、日本数学物理学会解散(1945.12)まで学会関係資料
2. 日本物理学会設立(1946年4月)以後の学会関係資料
3. 物理学会へ寄贈された資料
  - a. 講義ノート、受講ノート(水野善右衛門、宮原将平、土井不曇、など)
  - b. 小谷正雄、量子力学習得ノート
  - c. 戦前の学術雑誌: 東北大学理科報告、理化学研究所彙報、科学(岩波書店)など

日本物理学会の事務局が2003年に移転し、それまで事務局と同じ建物内に保管されていた物理

学史資料は成田の倉庫に移された。『日本数学物理学会記事』など若干の資料は現事務局に保管されているが、その他の(資料は、所定の手続き以前と変化はない)を経て許可を得たのち、成田からの取り寄せをまって閲覧することとなった。

事務局の移転のために事務書類の整理が行われたが、その過程で、東京数学物理学会発足から戦争直後の数学会・物理学会の発足に至るまでの事務書類(内容の多くは『記事』に掲載されている)が発見された。2004年度に、岡本がこれらのリストを作成し、マイクロフィルム撮影を行った。

また、2004年に東京大学教養学部駒場博物館で開催された「第一高等学校創立130周年記念駒場の歴史展」において、第一高等学校の教員を務めた土井不曇のノート(日本物理学会所蔵)の一部を展示した。土井のノートには傷みが見られたため、これも2004年度に岡本がマイクロフィルム撮影を行った。

マイクロフィルム撮影後の確認作業のため、2005年12月現在、新発見の事務書類と土井不曇ノートは、東京大学大学院総合文化研究科科学史・科学哲学研究室の岡本拓司の研究室に置かれている。

高千穂大学の勝木渥研究室に置かれていた日本物理学会所蔵の資料の一部も、勝木の定年後、東京大学の科学史・科学哲学研究室の書庫に移されている。2005年12月現在、勝木が駒場において同資料のリストを作成中である。

保管場所：東京大学大学院総合文化研究科科学史・科学哲学

責任者：岡本拓司

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

TEL 03-5454-6694, FAX 03-5454-6978

## 【物性関係資料】

東京大学物性研究所物性研究資料室(1984年4月1日創設-1999年8月閉鎖)

## 文書関係資料

物性研究所の物性研究資料室は、物性研究所の柏移転が決まったため、1999年8月に閉鎖された。

収納されていた資料は、①機械振興会館地下の日本物理学会倉庫、②高千穂商大勝木研究室、③日理工大学部倉庫（安河内昂資料）に分割保管されていたが、①は物理学会事務所の移転に伴い物

理学会の成田の倉庫に、②は、勝木の定年退職に伴い東大駒場の科学史・科学哲学研究室の書庫に、③は核融合科学研究所にそれぞれ移された。②については目下「仮目録」作成作業が進行中である。

物性研究資料室についての問い合わせは、勝木渥 (akatsuki-tanusa@nifty.com) まで。

## 実験機器関係

### 【第一高等学校旧蔵理化学機器】

保管場所：東京大学教養学部総合文化研究科駒場博物館（自然科学博物館・美術博物館）  
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1  
[http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/shise\\_shizen.html](http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/shise_shizen.html)

第一高等学校が旧蔵していた理化学実験機器が、東京大学教養学部の駒場博物館に所蔵されており、随時展示もされている。理化学機器類は1870年代前後のものから戦後に至るまでの時期に製作されており、第一高等学校が購入したもののが大半であるが、なかには東京帝国大学から譲り受けたものも含まれている。

理化学機器の総数は90点ほどであり、総量は第三高等学校・第四高等学校等の旧蔵理化学機器類に比べると極めて少ない。多くの機器類は処分されてしまったが、特に珍しいもののみが、重要性に気づいた教員の手で守られてきたようである。珍しい機器としては、スイス製のフーコーの回転鏡（19世紀末の製作と考えられる）、ルドルフ・ケーニッヒ製作の音響分析機（19世紀末の製作であり、ケーニッヒ製であることに疑いはないが、共鳴器のつくりが単純であり、ケーニッヒ製品特有のマークも刻まれていない）などがある。

理化学機器のほかに、測量・製図関係の機器類数百点、顕微鏡類数十点なども保管されている。測量機器には、陸軍が模範とする国をフランスからドイツへと変更した時に参謀本部から放出され、文部省を経て高等学校へと譲られたフランス製のものが含まれる。製図関係の機器には、工部大学校の刻印のあるものもある。

第一高等学校に関する文書資料、第一高等学校旧蔵書にも物理学史に関連のあるものが含まれて

いる。第一高等学校生徒の作品を集めた『校友会雑誌』には、本多光太郎が一高校時代に書いた複素数に関する論文も掲載されている。

以上の資料については、東京大学総合文化研究科内に設けられた一高資料ワーキンググループによって整理が進められており、今後の管理方法についても検討されている。東京大学駒場キャンパス内の駒場博物館では、常設展などの際に資料の一部が展示されている。

（岡本拓司）

### 【第三高等学校旧蔵物理実験機器】

保管場所：京都大学総合博物館（1997年4月創設）

The Kyoto University Museum  
責任者：中坊徹次（館長、京都大学教授）  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-3272  
<http://inet.museum.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学総合博物館には、旧制第三高等学校由来の物理実験機器（三高コレクション）が628点保存されている。4点は常設展示されているが、その他は収蔵庫に保管されている。628点のうち562点は購入年、購入金額、入手先等が当時の実験機器台帳等から判明した。それらについては、同博物館のホームページで機器名や購入年等のいくつかの検索用語で検索し、機器画像も含めて表示できるようになっている。コレクションの概要を述べると、物理学の分野別の実験機器構成では、電磁気学が254点（45%）で最も多く占めている。次に多いのが光学機器で100点（18%）となっている。購入年でみると、明治期が342点（61%）で最も多い。大正期の機器数は161点（16%）、昭和期ただし昭和20年までの機器数が

## 実験機器関係

131点(23%)である。明治19(1886)年までに購入された実験機器数は77点(14%)であり、この時期は、日本の学校制度形成期の歴史的に重要な期間であり、それらは特に歴史的に貴重な実験機器といえよう。

三高コレクションのホームページ：<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>

永平幸雄、川合葉子編『近代日本と物理実験機器 京都大学所蔵明治・大正期物理実験機器』京都大学出版会、2001年、349頁

(大阪経済法科大学 永平幸雄)

### 【第四高等学校旧蔵物理実験機器】

保管場所：金沢大学資料館（1989年4月創設）  
責任者：田中重徳（金沢大学資料館長、金沢大学大学院医学系研究科脳医科学専攻教授）

〒920-1192 石川県金沢市角間町（金沢大学附属図書館内）

TEL 076-264-5215, FAX 076-234-4051  
[http://web.kanazawa-u.ac.jp/~shiryo/top\\_frame.html](http://web.kanazawa-u.ac.jp/~shiryo/top_frame.html)  
E-mail: museum@ad.kanazawa-u.ac.jp

本学が金沢城内キャンパスから角間新キャンパスへの移転の際に、第四高等学校旧蔵の物理実験機器約1,200点の整理が行われ、91点が金沢大学資料館に、残りがすべて石川県自然史整備室に分割・保管となった。この機器数は我が国で最も多いものである。前者に収蔵された機器は図録①に、後者に収蔵された機器は図録②に収録されている。これらの機器の中には「石川県専門学校（明治14-21年）で教育に使用された機器157種

249点の内の81点が図録③に収録されている。さらに、明治11年文部省より全国の公立師範学校に交付された物理実験機器110点に関して、石川県中学師範学校（啓明学校）もこの交付を受けていた。従来、この交付機器の存在は不明であったが、調査の結果、石川県専門学校の第四高等中学校への移管の際に作成された公文書に記載の実験機器目録と、文部省交付実験機器目録との一致から、110点のうち57点が現存することが明らかとなった。詳細は図録③に記載した。また、石川県中学師範学校、石川県専門学校で使用された輸入物理学書、同参考書に関しては目録④に収録されている。これらの図録・目録には関係事項の解説、資料の分析等が記載されており、明治期の金沢での高等教育の実態を知ることができる。

図録①金沢大学資料館目録 1.「金沢大学資料館収蔵、第四高等学校物理機器図録」金沢大学資料館(2004)

図録②「四高由来の物理実験機器カタログ—石川県教育委員会所蔵—」永平幸雄、石丸治平、今江新成(2005)

図録③金沢大学資料館目録 3.「石川県専門学校物理機器図録明治10年代の物理学教育と文部省交付物理機器」金沢大学資料館(2005)

目録④金沢大学資料館目録 2.「石川県専門学校洋書目録」金沢大学資料館(2005)

関係した物理機器カタログ79点も収蔵している。図録に関するお問い合わせは、金沢大学資料館へ。

(資料館客員研究員 板垣英治)

(『物理学史資料委員会会報』No.3の著作権は日本物理学会にある。)